

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 25年 5月 31日			
所属学部・研究科	文学研究科 1年次 (留学開始時点)			
留学先大学	ネバダ大学 リノ校 (国名:アメリカ)			
所属学部・学科等名	English			
在籍身分	Graduate student			
留学期間	平成 24年 8月 13日～平成 25年 5月 15日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: J-1			
	ビザ申請先: 大阪			
	取得方法, 提出書類: ホームページの指示通り書類を埋め、大阪の大使館に提出しました。緊張していましたが、当日の面接はかなり短くて拍子抜けでした。			
	手続きに要した日数: 約一週間			
その他必要な事前手続き	入寮の申し込み			
出国年月日	平成 24年 8月 13日			
経路	長崎 (地元) → 羽田 → 成田 → サンフランシスコ → リノ			
現地での出迎え	有り (広大に交換留学できていた友人の友人)			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着翌日にオリエンテーション。丸一日かけて大学内を巡り、書類を提出したり学生証を作ったりしました。			
帰国年月日	平成 25年 5月 16日			
経路	リノ → サンフランシスコ → 成田 → 羽田 → 長崎			
2. 留学経費について				
所要経費	総額		円	
	内訳	渡航費	25万	円
		保険料	10万	円
		教科書代(学費)	3万	円
		宿舍費	30万	円
		食費	15万	円
		その他 (娯楽費) (費) (費)	15万	円 円 円
3. 授業について				
年 秋学期	8月 25日 ~ 12月 18日			

年 春学期	1 月 20 日 ~ 5 月 15 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	交換留学生ということで、取る授業は比較的自由に選べました。
単位互換希望の有無	有り ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	どの教授も親切なので、授業についていけなかったオフィスアワーを積極的に活用するのがよいと思います。とても丁寧に教えてくれます。
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	大学の寮
住居の広さ	約 m ² 同居人の有無 有り <input type="checkbox"/> 有 (4 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	電気 ガス 水道 給湯 シャワー 水洗便所 暖房 冷房 台所 食堂 インターネット その他 (テレビ クローゼット)
住居費	1ヶ月当たり 450 ドル(現地通貨) 約 4 万円
住居を決定した方法	留学先大学の紹介
留学先での住居全般に関するアドバイス	ネバダ大学では、寮は周辺のアパートより割高でした。しかし、友人がたくさんできるし、楽しいイベントもあります。寮に入ることによってアメリカの大学生活をほんとうに体験できた気がするので、多少高くても入ってよかったなと思っています。
(2) 医療について	
1 日以上入院を要する 病気・怪我等を	しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を 掛けた場合	掛けた 日本
掛け金は 補償額 死亡 その他 ()	年間 円 円, 入院 1 日 円
留学前後での予防接種 の必要の有無	有
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	入寮するために3つくらい予防接種が必要でした。日本でも受けられるみたいですが、少し割高だと聞いたのでアメリカについてから大学の保健センターで受けました。
日常的な健康について 不安が	なかった
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	医療機関を利用しませんでした。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	日本にいるときと基本的に同じだと思います。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
旅行した際にホステルを少し危ない地区にとっけてしまい、浮浪者に追いかけられました。旅行先の治安などについても計画段階で考える必要があったと思います。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
僕自身幼いころからずっとサッカーをやっていたということもあり、アメリカでも週一回か二回くらいのペースでやっていました。それを通じてたくさん友達を作ることができ、いい気分転換にもなったので、やっていて本当に良かったと感じています。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 26年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	新卒で卒業するため	
現在の状況および今後の予定・進路等	単位数は足りているため、あとは修論を書くだけという状況です。しかし、就職活動をしようと思立ち、一年間休学しようと思っています。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学に行く前にできるだけ単位を取りました。当初は教員志望で、試験が9月なので、そのまま卒業しようと考えていましたが、少しまだ気持ちが揺れているので休学することにしました。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
OED		語学専攻なので
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
自分は留学はおろか、外国人と話すことも、飛行機に乗ることも初めてだったので当初はすごく緊張していました。しかし、行ってみると周りの友達に親切な人が多くて、流暢に話せなくても何とかできました。自分ができていたかどうかは疑問ですが、失敗を恐れずに面白そうなことに飛び込んでいくような姿勢が、留学中は大切だと思います。		

学習の概要に関するレポート

自分は HUSA で留学させてもらうまで、海外旅行にも行ったことがなかったし、外国人と英語で会話することもほとんどなかったため、自分の英語力が不安でした。しかし、実際に大学に行ってみると、そういった留学生用にブリッジクラスが開講されていて、それをとることによって不安がいくらか解消できたように思えます。そのクラスでは生徒はみな自分と同じ留学生なので、アカデミックのクラスに比べて気軽に発言もできるし、友達も多くできました。授業自体も簡単なので、負担になるようなことはありません。初めの学期ではその留学生用のクラスと並行してアカデミックのクラスも取りましたが、こちらは生徒がみなアメリカ人だし、当然教授も留学生のために進度を落とすようなことはしないのでついていくのは少し難しかったです。しかし、教授はみな親切で、オフィスアワーに行ったらとても丁寧に教えてくれるし、自分の専攻に関係している授業をとるとある程度背景知識もあるので、全く授業の内容がわからない、ということはありませんでした。アメリカの大学では、週当たり 2~3 回授業があるのに加えて、課題も日本に比べると多かったので、予習、復習は日本にいた時よりも大変でした。

授業形態は講義というよりも、頻繁にディスカッションやペアワーク、グループワークなどを挟んでくるので、ただ座って聞くだけというわけにはいきません。自分の意見が言えずに落ち込むことも多々ありましたが、慣れてくるにつれて少しは発言もできるようになってきたかな、と思います。

大変なことや落ち込むことも多かったです。日本の大学とは違うスタイルの授業を経験できたことは日本に帰ってからも活かせる経験だと思うし、自分の専攻に関する授業をとっていても、日本と内容が同じではないので、視野が広がりました。海外の大学の授業を受けるという経験はなかなかできることではないと思うので、HUSA プログラムで留学できて本当に良かったです。

生活に関するレポート

前述したとおり、僕は海外に行くことが初めてだったので最初はとても緊張していました。とりあえず学校の寮に住むことに決めたのですが、ネバダ大学には5つの寮があり、その中から一つを日本にいるときに決めなければいけませんでしたが、当然ながらどこがいいかもわからなかったのが一番家賃が安い寮に決めたのですが、いざ行ってみると、とても狭くて驚いたのを覚えています。ミールプランも高額だったため買うのを見送っていた上にキッチンもないので、食事はパンにハムをはさんだだけのサンドイッチや安い冷凍食品、など貧相なものが多く、少しストレスを感じました。しかし、ルームメイトともすぐに打ち解けることができ、日本でも少しルームシェア生活を送っていた経験があったので、部屋をシェアすること自体には抵抗はありませんでした。後期からはキッチンのある寮に移りましたが、こちらはとても広くて過ごしやすかったです。寮によって差があるので、寮選びは慎重に行った方がいいと思います。

僕は留学当時22歳だったので、ルームメイト達とよくバーにお酒を飲みに行きました。バーのようなうるさい環境でスラング交じりの話をするのは授業とはまた違った難しさがあり、ただ楽しむだけでなく、いい勉強になっていたと思います。

ネバダ大学には以前HUSAで広島大学に留学していた学生も何人かいて、彼らにはとてもよくしてもらいました。寮が閉まる長期休暇や、サンクスギビングなどのイベントの時にはその友人の家で過ごさせてもらい、アメリカの家族の生活を体験できました。

初めは不安でしたが実際に生活してみると意外と順応できると思うので、これから留学に行くという人も心配することはないと思います。帰ってきてみると授業以外の部分で学ぶことの方が多気がするので、危険なこと以外ならどんなことでもチャレンジしてみたいです。失敗したとしても後々いい笑い話になると思うので。